

第5学年 総合的な学習の時間 指導案

大牟田市立みなと小学校
教諭 石橋 剛志

1 単元名 総合的な学習の時間 「命を守る 地域を守る」(減災教育)

2 単元の目標

- 令和2年7月豪雨の経験をもとに、これから生活する上で必要となることについて、連携性、責任性の視点から理解するとともに、課題解決の方途について探究する技能を身につけることができるようにする。
【知識・技能】
- 令和2年7月豪雨に対する体験・調査などを通して、気候変動と人や社会とのつながりについて、多面的・総合的に考えるとともに、持続可能な地域・社会の未来像を予測し、その構築へ向けた行動の在り方について実現可能性の視点から考え、判断し、他者によりよく伝わるように表現することができるようにする。
【思考力・判断力・人間力等】
- 令和2年7月豪雨についての学習を通して、気候変動と人や社会との相互のつながりに関心をもち、よりよい地域・社会へ主体的にかかわり、他者と協力しながらよりよく行動しようとする態度を身につけることができる。
【主体的に学びに向かう態度】

3 単元について

(1) 教材観

本教材は、令和2年7月豪雨を受けて作成した教材である。大牟田市では全壊11棟、半壊1218棟、一部損壊1122棟、床上浸水108棟(令和2年8月24日時点)の被害を受けている。その中でも、みなと小学校校区は特に被害が大きく、本校も1階が浸水した。そこで、豪雨の経験から本教材を考えた。まず、GTの方(消防団・公民館・市役所)を招き、当時の様子について話をいただき、状況を把握する。つぎに、大雨の原因について課題追究を行う。そして、大雨の原因には海洋温暖化があることに気付くとともに、これからも大雨が降る日があることから、被害を減らすためにどのようなことができるのかについて考え、そのことを友達や外部の方と協働して表現物に表す。それらを通して、公助を受けるための自助が必要であると気付くとともに、そのためには、地域の方との連携や自分の命を守ることの責任を理解させたい。

(2) 児童観

本学年の児童は、3年生から海洋教育に取り組み、海と人との共生について学習してきている。3年生では「海を知る」ために、干潟観察会や有明海で採れる魚の調査を通して、干潟の楽しさを感じたり、様々な生物が海で生活していることに気付いたりした。また、調べたことを基に有明海の生き物図鑑を作成したり、干潟の生き物の特徴を生かしたゲームを考え、「うみまつり」を開催したりした。4年生では「海を守る」ために、身近にある世界近代遺産である三池港の景観や環境に関心をもち、元三池海水浴場の清掃活動や、清掃で拾った廃材や流木・貝殻を使用した小物の制作・展示を通じた三池港保全への協力呼びかけを通し、環境保全の大切さを実感し、三池港に対する愛着を深めることができた。そこで、5年生では、自分たちの身近な経験から海とのつながりを考え、持続可能なまちづくりを行おうとする姿を目指したい。

(3) 指導観

本単元の指導に当たっては、これからも起こり続けることが考えられる豪雨の経験をもとに、自分たちにできることを考え、行動することをねらいとしている。

そのために、まず、学習課題Iとして、7月6日の雲の様子から雨がたくさん降ったことに気付かせ、その結果、学校はどのようになったかを示す写真を提示する。また、500ml以上の降水量を経年変化で示す資料を提示し、昔に比べて、今は大雨が降る日が増えていることに気付かせ、課題を設定する。そのた

めに、大雨が降る原因について調べ学習を行ったり、GTの方からの話を聞いたりする。つぎに、学習課題Ⅱとして、大雨の被害を減らすために、自分たちにできることについて話し合い、「みなと版防災ハザードマップ」と「大雨時の行動マニュアル」を制作するにあたり、どのような情報が必要かなどについて課題を設定する。そして、完成したものをGTの方に見ていただき、指導してもらい。最後に学習課題Ⅲとして、制作したものを、誰にどのようにして配付するかを話し合いで決定し、発信する。

4 単元の評価基準

知識・技能 (a)	思考力・判断力・表現力 (b)	主体的に学習に取り組む態度 (c)
① 海と自然災害（雨）とのつながりについて理解することができる。 ② 課題解決の方途について探究する技能を身に付けることができる。	① 「なぜ大雨が降るのか」について調べる活動を通して、海と自然災害（雨）とのつながりについて考えることができる。 ② 「今後も大雨が降ることが予測される」未来像から、自分たちにできることを判断し、他者によりよく伝わるように表現することができる。	① 自然災害（雨）に主体的にかかわり、他者と協力しながらよりよく行動しようとする態度を身に付けることができる。

5 ESD との関連

(1) 本学習で働かせる ESD の視点（見方・考え方）

- 連携性・・・これからの減災教育は、行政だけが努力するのではなく、自分たちが地域のことを考えて努力することが大切であること。
- 責任性・・・私たちが減災教育への行動意識を変えていくことが何よりも大切であること。

(2) 本学習を通して育てたい ESD の資質・能力

- 多面的・総合的に考える力（システムズ・シンキング）
「水害から身を守るために自分たちにできること」について考える。
- コミュニケーションを行う力
これからの減災教育について、市役所の方や地域の方との交流を通して考えを聞いたり、友達と意見交流を通して自分の考えをつくりあげたりする。
- 他者と協力する態度
自分だけが地域のことを考えるのではなく、地域の方と協力して、水害から身を守ろうとする態度をもつ。
- つながりを尊重する態度
予測できない自然災害は、地球規模の課題と密接に関わっているため、自分たちがそれに対する意識を持たなければならない。

(3) 本学習で変容を促す ESD の価値観

- 世代内の公正
自分たちも地域の方も、自然災害の被害をできる限り減らそうとすることが大切である。
- 世代間の公正
自分たちが住んでいる地域が、これからも安心して生活できるようなまちづくりを追求することが大切である。

(4) 達成が期待される SDG s

- 1 1 持続可能な都市
- 1 3 気候変動
- 1 4 海洋資源

6 展開の概要 (全25時間)

段階	学習活動	●学習への支援 ・予想される児童の反応	○評価 ・備考
課題 設定 I	<p>○ 豪雨の経験をもとに、学習課題を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料をもとに、大雨が降るとどのようなようになるかを考え直したり、大雨が降る回数が増えていることに気付いたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 7月6日の雲の様子や当時の学校の様子を提示する。 「たくさん雨が降ったから、学校や学校の周りに多くの被害が出た」 500ml以上の降水量を経年変化で示す資料を提示する。 「大雨が降る日が増えているな」 	
<p>今まで大雨の被害を受けたことがなかったのに、突然、大雨が降ったのはなぜだろう</p>			
情報 収集 ／ 整理 分析 I	<p>○ 大雨が降る原因について、資料やGTの方の話をもとに調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 調べる活動を行う。 GTの方の話を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> 「海水温が上昇し、水が蒸発しやすくなることで、大気中に雲が増えたから大雨が降るんだな」 GTの方(市役所・公民館長・消防団)から、当時の様子(どんな行動をして、何が課題だったのか。)についての話を聞く。 「自分たちの見えないところで、たくさんの方が被害を減らす努力をしていたんだな」 「色々な課題があるけれど、自分たちにできることはないかな」 	(a) ① (a) ② (b) ①
まとめ 表現 I	<p>○ 大雨が降る原因についてまとめるとともに、新たな学習課題を見通すことができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> これまでの生活と調べて分かった事実を関連付け、新たな学習課題をつくる。 「今後も大雨が降ることが予測されるからこそ、自分たちにできることはないか。」 	
課題 設定 II	<p>○ 新たな課題をもとに、これから自分たちにできそうなことを考え、計画を立てる。</p>	<p>これからも予測される大雨のために、自分たちにできることを考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「浸水した場所を確認して、どこに避難したらいいか分かるものがあるといいね」 「大雨が降ったときや降る前にできることを考えて、紙にまとめておくといいね」 	

情報 収集 / 整理 分析 II	○ 考えをもとに、グループに分かれ、情報収集や整理を行う。 ・防災バッグ ・浸水状況 ・行動の仕方 ・水害時の危険箇所 ・避難経路 ・今の地域の様子 ・当時の様子 (学校) ・当時の様子 (学校外)	● 様々な情報を収集するために、グループに分かれ、調査活動を行う。 (調査方法) ・本、インターネット、取材、現地調査	(a) ② (b) ②
まとめ 表現 II	○ グループごとに調べて分かったことについて、模造紙にまとめ、交流する。		
課題 設定III	○ 交流したことをもとに、地域に発信するための必要な情報を整理・分析する必要性に気づき、学習課題を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">今後、同じ被害に遭わないために自分たちがつくったものを地域に発信しよう。</div>	・「自分たちが調べたことを地域の方に伝えることで、命を守ってもらえそうだな」	(b) ②
情報 収集 / 整理 分析 III	○ 地域に向けて発信する事柄を精査するために、調べたことをもとにシミュレーションを行う。 ○ 地域に向けて、発信する方法や発信する相手などを話し合う。 ○ 発信先へ、自分たちでアポイントを取り、届けることができる。	● 調べたことを生かして、実際に行動できるかどうか、場面設定をしてシミュレーションする。	(c) ①
まとめ 表現 III	○ 学習のまとめを行う。		(c) ①